

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700096		
法人名	グリーンライフ株式会社		
事業所名	はびね周南		
所在地	山口県下松市生野屋南1-7-10		
自己評価作成日	平成28年5月1日	評価結果市町受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成28年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

はびね周南は ご入居者様にとってのご自宅です。地域の中で共に暮らす生活者として日々過ごすことを大切にしています。子供さん達の日々の安全を願う 近隣の小学校への交通立哨は5年目を迎えました。日々、笑顔とパワーを頂く子供さん達に、感謝の気持ちをこめて 卒業式では、皆で作ったお手製の「ハピコットちゃん」をプレゼントさせて頂きました。また、集団の中の1人ではなく、「個」として尊重したいという思いから、個別の関わりを重視しています。1日お1人限定2時間ではありますが、マンツーマンでお好きな事にお付き合いでする時間を作り、「その方の思いに寄り添う」を形にしています。また、日々取り組まれている趣味的な活動を、年1度のはびねギャラリーとして作品展示し、ご家族や地域の方をお招きしたイベントにしています。「自分が認知症になった時 入りたい施設に1歩ずつ近づいている。そんなはびね周南です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月に2、3回午後の2時間を個別支援として利用者と、職員が1対1で過ごされ、誕生日には利用者の希望を取り入れた計画をたてられて、利用者と職員が1日を過ごしておられるなど、利用者一人ひとりを大切にされた寄り添った支援に取り組まれています。地域の清掃作業や小学校の交通立哨、卒業生への記念品づくり、ギャラリー作品展への作品づくり、畑や花の世話、ぬか漬けづくりなど、利用者の楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をされています。ボランティアや押し花・絵手紙の講師、民生委員など多くの方が来訪され、事業所主催の行事には家族や地域住民が多数参加されるなど、事業所と地域の交流が日常的に行われています。家族には毎月写真と担当職員のコメント入りの新聞が発行され、毎月のヒヤリングシートや年1回のアンケートで家族の思いや要望を聞かれたり、事業所の行事や誕生会招待時には家族と個別にコミュニケーションを取っておられるなど、「居心地の良い施設」を目標に支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分や家族が認知症になったとき 入りたいGHをつくる を施設理念に掲げ実践している	法人の理念と事業所独自の理念を事業所内に掲示している。全職員が理念の記載してあるカードを携帯し、朝礼時に唱和している。毎年目標を掲げており、今年度は昨年度に引き続き「居心地の良い施設にしよう」を目標にしている。全職員が理念と目標を共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の班長 スクールガイドボランティア 地域交流センターのクリーン作戦実施	自治会に加入し、毎月の地域の清掃活動には職員が参加している他、近くの地域交流センターの清掃活動に利用者と職員が参加している。毎日小学校の下校時に交通立哨をして子ども達と交流しており、卒業式には利用者手づくりのマスコットを配っているなど、親交を深めている。近くの施設の行事に参加している他、事業所主催の夏祭り、運動会、もちつき、ギャラリー作品展には家族や他施設の利用者、地域住民の参加がある。三味線、ハーモニカ、大正琴、フラダンス、歌謡ショー、体操などのボランティアや民生委員によるアコーディオンの来訪がある。毎月押し花、絵手紙の講師が来訪し、利用者は作品づくりを楽しんでいる。利用者のカラオケ仲間が来訪したり、月に1、2回民生委員が来訪し、利用者の話し相手をしている。散歩の時には近所の人に声かけしたり、中学生の職場体験を受け入れているなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長寿社会課長寿支援係と連携し、下松市の認知症施策に協力している。 ・認知症サポーター養成講座 ・予防教室(にこにこ塾・OB会) ・徘徊見守り訓練 他		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	リーダー会議で 評価について報告し 次のステップに向け今後の取り組みを話し合っている 朝礼時管理者から、フロア会議時リーダーから各フロアに伝達し共有している	ユニットごとにリーダーが職員の意見を聞いてまとめたものを、施設長とユニットリーダーが話し合ってまとめ、フロア会議、全体会議で報告している。職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、自分達が実施したことで業務の振り返りや見直しができ、今後の課題が明確になるなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。評価結果は職員に回覧している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告。	会議は2ヶ月ごとに開催し、事業所の活動報告や利用者の状況、インシデント・アクシデント事例等を報告し、話し合っている。8月、10月、12月は、夏祭り、運動会、餅つきの事業所行事と合わせて開催し、行事に参加してもらっている他、6月には試食会を行って、意見交換をしている。メンバーである民生委員からの困難事例の相談について助言をしたり、意見交換をしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿社会課長寿支援係と連携し、下松市の認知症施策に協力している。 困難事例については市包括に報告し協力いただいている	市の担当者へは毎月初めに直接出向いて、入居者、待機者の報告をしている他、相談して助言を得たり、情報交換して協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時に情報交換している他、電話や訪問等で連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止委員会⇒毎月1回検討している ・年1回 身体拘束廃止委員会が主体となり全スタッフへ研修をしている	毎月第2水曜日のリーダー会議に合わせて身体拘束廃止委員会を開催してモニタリングを行い、各ユニットの状況を報告して、検討し、全職員に伝えている。職員は内部研修で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについても気になる言動については職員同士が注意し合ったり、施設長が指導している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の実施。併せて現場ではグレーゾーンに該当しそうな事例について早期発見に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年研修を実施している。地域包括支援センターに相談する場合もある		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず管理者が実施項目ごとに納得されておられるか確認しながら行っている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	口頭や電話だけでなく、アンケートの実施・モニタリングの実施、ご意見箱を設置する等の対応をしている。ご意見ご要望は、紙物ベースにし、全スタッフで共有することで再発防止に努めている	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。電話や面会時、運営推進会議時に家族から意見や要望を聞いている他、事業所主催の行事の参加や誕生会の招待時には個別で話し合うなど意見や要望が出しやすい環境づくりにつとめている。意見箱を設置している。年1回家族アンケートを実施している他、毎月利用者ごとに写真や担当職員のコメント入りの新聞を発行する時に家族の思いや要望を聞くための「ヒヤリングシート」を同封し、家族全員から返信されている。月に1、2回民生委員が利用者の思いを聞いたり、2ヶ月に1回介護相談員が来訪し、利用者から意見を聞いている。食事制限がある利用者への食事内容の希望や部屋の電灯の希望など家族からの意見には、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回労働者の代表を投票で決め、主にその代表を窓口としているが、毎月1回リーダー会議で意見を聞いている。他に出社時タイムカードの設置場所が施設長室に近いことから毎日顔を合わせ気軽に話ができる環境にしている	毎月のリーダー会議で職員の意見や提案を聞いている他、施設長は、日常の業務の中でも、職員とコミュニケーションを図る機会を設けて、意見を聞いている。昼休憩の摂り方など、職員の意見や提案を運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価 委員会活動 劇団・予防教室インストラクター等 業務外でも活躍の場を設けている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修・本部研修	外部研修は、職員に情報を伝え、参加の機会を提供している。法人研修は、新人研修の他、段階別、職種別、テーマ別の研修が組み立てられており、勤務の一環として延30名の職員が参加している。内部研修は、施設長や職員が講師となり、毎月のスタッフ会議の中で接遇、苦情受付、感染症・食中毒予防、虐待防止、身体拘束、事故発生防止、介護記録、個人情報、倫理・コンプライアンス、認知症ケアなどをテーマに実施している。職員は個別に研修ファイルを作成している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に互いに出席しあい サービスの質の向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ヒヤリングを十分に行い思いを聞きとるようにしている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ヒヤリングを十分に行い思いを聞きとるようにしている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初はスムーズに移行できるよう、DSを利用し、馴染みの関係性や日常の生活リズムを大幅に変えない工夫をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割をもち 生活の中で人の役に立ち感謝される場面があるよう支援している		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報は毎月の新聞だけでなく、こまめに電話する等して伝達している。年間 家族参加の行事を多く設け 共に過ごし、スタッフとも話がしやすいようにしている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診 外出支援 来客対応	家族や親戚の人、友人、知人、民生委員、カラオケ仲間などの来訪がある他、スーパーへの買い物、散歩、家族の協力を得ての旅行、外食、外出、自宅への帰宅、墓参り、法事への参加などこれまでの馴染みの関係が途切れない支援に努めている。自宅の郵便物の確認のために2週間ごとに職員が自宅を訪問している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	GH合同レクやDSとの「ハッピーパーティー」等の交流会 仲良し同士で散歩をする等 関係性を考えた支援		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去したご家族が気軽に お話によってくださったり お手紙を下さったり 行事に参加して下さったり ボランティアとして慰問にきてくださったりしている。ご相談を受けることもあり対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が困難な方については 日ごろのご様子からスタッフ間で検討している	アセスメントの活用や日々の関わりの中で利用者の行動や言葉等を支援記録に記録し、利用者の思いや意向を把握し、職員は共有している。利用者を担当する職員をつくり、利用者が話をしやすい工夫をしたり、月に2、3回午後の2時間を個別支援の時間として、利用者と職員が1対1で過ごす時間をつくり、思いや意向を把握している。誕生日には利用者の希望を実現するために計画をたて、全職員が協力して実践につなげている。困難な場合は、家族から聞き取り、職員間で話し合っ、本人本位に検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当CMからモニタリングし、アセスメントを十分に実施している		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、支援経過 DSのNSの助言等を情報提供している		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議だけでなく 特変時等 状況に応じて行っている	毎月のケア会議で本人の思いや希望、ヒアリングシート等で聞いた家族の意見や要望、主治医の意見を参考にして、計画作成担当者や利用者の担当職員を中心に話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、半年ごとに見直している他、利用者の状態の変化に応じた見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過にモニタリング、個別の記載を行い情報を全スタッフで共有し、ケアプランに反映している		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の気持ちに寄り添うことを形にすべく個別の対応に取り組んでいる		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問だけでなく 地域の祭りに参加したり こちらの行事にお招きしたり 交通立哨では、近隣の小学生の下校時の見守り活動を継続している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望に応じ、かかりつけ医への受診対応を施設対応で行っている。また、開設当初からの嘱託医の協力のもと適切な医療管理ができています	協力医療機関の他、本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を、他科受診を含めて家族の協力を得て事業所が支援し、利用者の状態を職員が医師に伝えている。協力医療機関から週1回の訪問診療がある他、月2回の訪問歯科診療がある。夜間や緊急時は施設長を中心に協力医療機関と連携して対応している。施設内にあるディサービスセンターの看護師が利用者の健康管理や職員の相談に対応するなど適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、DSのNSと連携し 適切な健康管理、医療支援体制が整っている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーや口頭でも都度、情報の伝達に努める等 関係性を築いている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご説明をするだけでなく、実際に状態の変化があったときに 家族と十分に話し合い 場合によっては医師の指示のもと、訪問看護事業所とも連携しながら チームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については指針に沿って契約時に事業所ができる対応について家族に説明し、同意書を貰っている。実際に重度化した場合は、利用者の状況の変化に応じて医師の意見を聞き、家族と話し合い、職員で方針を共有してチームで対応し、支援に取り組んでいる。施設長の指導で終末期や看取りに関する勉強会も実施している。昨年は2名の看取りを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	リスクマネジメント委員会があり インシデント・アクシデント報告から 要因分析をし 再発防止に努めている。全スタッフに回覧し周知している	インシデント・アクシデント報告書に記録し、その日に職員が対応策について話し合っている。毎月のリーダー会議で検討した後に各ユニットごとのフロア会議で全職員に伝えて共有している。インシデント・アクシデントについては発生時間、場所、頻度、内容、年齢、介護度などリーダーが毎月データ入力し、法人で要因分析したものをを用いて話し合い、再発防止に取り組んでいる。内部研修や消防署の協力を得た心肺蘇生法や応急手当の研修を実施しており、マニュアルをスタッフルームに設置し、職員はいつでも閲覧できるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を全スタッフ参加で実施している。緊急時は 地域交流センターが受け入れ先となっており 地域の協力体制も整っている	年2回消防署の協力を得て、昼夜を想定した訓練を実施している。1回は消防訓練で、通報、消火、避難訓練を行い、利用者が避難できる方法を職員は身につけている。1回は施設の裏が山になっているため土砂災害を想定した避難訓練を行っており、消防署の指導で施設内の安全な場所への避難を実施している。地域との協力体制は築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や現場での指導を繰り返し行っている	職員は研修で接遇や個人情報、虐待、コンプライアンスについて学び、理解して、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の時間に何をしたいか、何を作るか等日常的に ご本人が選択決定する場面が多くある。加えて意思表示が困難な方についても日ごろのご様子から思いを察するよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、ご入居者様 最優先の「誠意中心主義」の精神で個別の時間を大切にしたい関わりを心がけている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣はもとより 整髪・お化粧（一部の方ではあるが）毎日支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・本人の嗜好を伺う ・毎日の配膳等役割を持っていただく ・昼食作り・おやつ作り・夏祭り、ビアガーデン、お花見・運動会の弁当等、外で食事を楽しんだり 外食にお連れする等している	朝食はスーパーの宅配食材を利用して、ユニットごとに調理している。昼食と夕食は、施設内のディサービスの厨房で外注業者が調理した食事を各ユニットであたため、盛りつけている。食事は利用者の状態に合わせて食べやすい形状にして、彩りよく陶器の器に盛り付けているなど、工夫している。利用者は、テーブル拭き、配膳、盛りつけ、食器洗いなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は会話をしながら一緒に食事を楽しんでいる。月に1回、2ユニット合同で昼食レクとして鍋料理やちらし寿司、炊き込みご飯、お好み焼きなどをつくっている。月に1回はホットケーキやクッキー、みたらし団子、おはぎなどのおやつづくりやディサービスと合同でパンづくりなどをしている。利用者の誕生日には、その人の好みを取り入れたケーキをつくり、みんなで祝っている。外注業者の協力を得てビアガーデン、うどんづくり、もちつきでのぜんざいや雑煮、夏祭りでのカレーやそうめん流し、焼き鳥、花見弁当や行事食など、食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お1人ずつの適量や形状、摂取状況を把握し記録に残し共有している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による管理指導 毎食後の口腔ケア		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限り、予備動作を把握して誘導を心がけている。居室にトイレがあるため動線を意識し 安全に排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬は最終手段とし、まず、運動・水分摂取・毎朝起床時水を補給・夕食時のヨーグルトの提供・茶寒天・決まった時間にトイレ誘導・排便チェックでコントロールしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本、週3回以上 夕方の入浴を実施。本人の希望で毎日入浴される方、体調の関係で日中入浴される方もいる。お1人お1人に応じて支援している	入浴は毎日可能で、16時から18時までの間、一人ひとりの体調や希望に合わせてゆっくりと入浴が楽しめるように支援している。体調によっては昼間に入浴したり、シャワー浴や清拭での対応もある。ゆず湯やバラ湯など入浴を楽しむ工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	センサー類の見直しをした事で、静かな夜を取戻し ほとんどの方が良眠されるようになった。体調に応じて、日中、悲観を決め静養される方もある。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないよう薬情報を共有している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日々の生活上の役割 ・ギャラリーの作品作り ・個人の畑 ・ウォーキング ・外出	居室の掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、お盆拭き、お茶出し、おかずの盛りつけ、配膳、食器洗い、畑の草取り、水やり、収穫、ぬか漬けづくり、花の手入れ、地域の清掃活動、山菜採り、小学校の立哨、回覧板や広報の配布、周辺の散歩、テレビ視聴、ラジオ体操、本や新聞、歌、ちぎり絵、塗り絵、刺し子、押し花、絵手紙、習字、カレンダー作り、百人一首、囲碁、将棋、竹細工、アンデルセン、カラオケ、エプロンづくり、壁飾り、ランプなどギャラリー作品展に向けた作品づくりの準備など活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の関わりとして 買い物・散歩・ドライブ 誕生日レクでは遠出もするようになった。	周辺への散歩、ホームセンターやスーパーへの買い物、ペットショップ、近くの施設行事への参加、弁当を持参しての季節の花見(梅、桜、しょうぶ、紫陽花、バラ、コスモス、紅葉など)、梨やブドウ狩りなどに出かけている他、家族の協力を得て、旅行や外食、自宅への帰宅、墓参り、法事への出席、一人ひとりの思いに沿った個別支援や誕生日には本人の要望を聞いた外出など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度管理できる方は、ご家族、本人と話し合い、こづかいとして取り決めた少額のみ、持たれている。買い物時は、施設が立替、好きなものを購入していただいている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温・湿度 臭い 換気に注意した衛生的な空間であるよう心がけている。季節の花や手芸作品を飾る等 温かい雰囲気になしている	施設内は清潔に保たれており、共用空間は利用者の作品や季節の壁飾り、庭の花壇の花、職員が持参した花を飾り、季節を感じることができる。テレビの前には大きなソファを配置し、利用者はゆったりとテレビを楽しみ、テーブルやイス、畳スペースがあり思い思いにくつろいでいる。対面キッチンで野菜を刻む音や料理の匂いがするなど生活感がある。室温や湿度、換気に配慮し、心地よく過ごせる工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席に配慮し、それぞれが安心して、気兼ねなく過ごせるようにしている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者の状態に合った 安全で寛げる空間を意識している。飾りつけも、本人や家族の意見を伺いながらしている	テレビ、イス、整理ダンス、洋服かけ、鏡、時計、仏壇、ぬいぐるみなど使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる。家族との写真や自分の写真、カレンダー、絵や習字など自分の作品や花、山野草を飾り、利用者が安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の動線や空間を整備することで 自立できるようにしている		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 はぴね周南

作成日： 平成 29年 1月 4日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備え	全スタッフが確実にできるようになる。	リスクマネジメント委員会を中心とした研修の内容の充実をはかり、より実践的なものにしていく。	半年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。